

近年の豪雨や台風の異常発生などは、地球温暖化の急速な進行が影響しているとしています。さらに報告書では、大気中の温室効果ガスの濃度と地球の平均気温は今後も上昇していくとされ、これに伴う異常なまでの豪雨や干ばつなどの「極端な現象」も増加する可能性が高くなると指摘しています。実際に短時間豪雨の発生回数は、増加傾向にあります。気象庁が調査した「アメダス観測地点1,000地点あたりの1時間降水量50ミリメートル以上の発生回数」では、平成10年から20年までの11年間において年平均239回となり、これは昭和51年から61年の11年間の約1.5倍になっています(資料2)。今後も熱帯低気圧(台風)の強度が増大するとともに、大雨の頻度も引き続き増加する可能性が高く、洪水、土砂災害などによる被害が予測されています。

大地震は必ずやってくる

都留市での被害が予想される地震は、「東海地震」と「南関東(首都)直下型地震」と言われています。

「東海地震」は駿河湾沖の海溝にフィリピン海プレートが沈み込んで起こる地震で、今後30年間に87%の確率で起こるとされています。地震の規模は、マグニチュード8クラス(震度6弱〜5強)と推定され、甚大な被害が発生すると予測されています(資料3)。

「南関東(首都)直下型地震」は内陸部の活断層の活動により起こる地震で、主に関東地域に大きな被害が予想され、今後30年間に70%の確率で起こるとさ

れ、地震の規模はマグニチュード7クラスと推定されています。その他、昭和45年(1970年)から頻発して起こっている「東部・富士五湖地震」があります。

災害弱者(高齢者)人口の増大

社会環境で近年、危惧されていることは、少子・高齢化に伴う高齢化人口の増大です(資料4)。高齢者は各種災害において大きな被害を受ける傾向があります。平成18年の豪雪では死者数の約3分の2が65歳以上であり、平成

16年7月の新潟・福島及び福井豪雨では20人の死者のうち17人が65歳以上でした。このような背景には、高齢化により地域コミュニティにおける「共助」の力が落ちてきていることや、就業形態や家族構成の変化により、災害が発生した際に高齢者を助けられる若者が周囲にいなくなってきたことなどが考えられています。平成12年の東海豪雨を例にとると、独居高齢者が避難に要した時間が2時間半であったのに対し、若い人と同居している高齢者が避難に要した時間は1時間半と大幅に

短かったという調査結果が出ています。また、平成18年の豪雪の事故では除雪作業中の屋根からの転落が最も多くなっていますが、1人で作業を行っているときに事故にあうことが多いという調査結果も出ています。高齢化は、主に中山間地域などに多く存在する過疎地域で特に進行が早くなっています。また、このような地域では、森林の管理にも支障が生じ、土砂災害の危険性が高まっているとの指摘もあり、高齢化による地域防災力の低下が懸念されています。

資料3 東海地震による被害想定 ※予知なし、冬午前5時を想定
(県富士・東部地域県民センター資料)

《死傷者》

	山梨県			都留市		
	死 者	重傷者	軽傷者	死 者	重傷者	軽傷者
建物被害	311	581	5,222	2	8	68
火災	8	8	8	0	0	0
斜面崩壊	52	80	174	1	2	4
合計	371	669	5,404	3	10	72

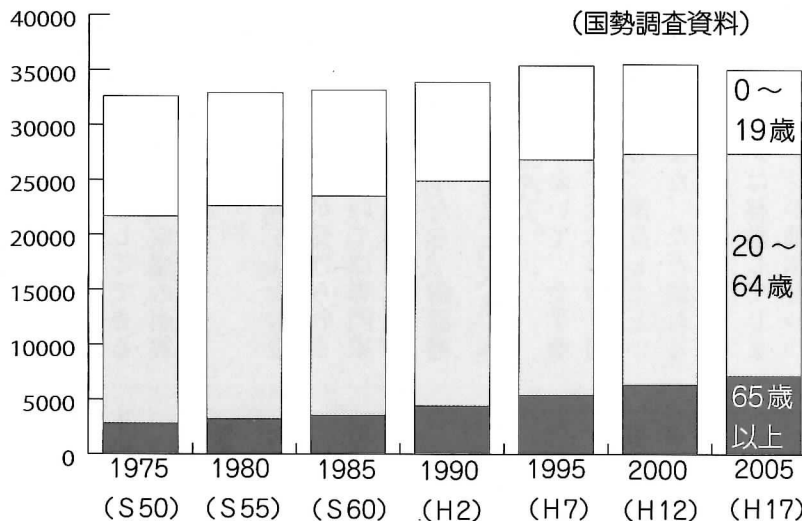
《建 物》

	山梨県			都留市		
	木 造	非木造	合 計	木 造	非木造	合 計
全壊棟数	6,073	839	6,912	22	8	30
半壊棟数	28,179	2,750	30,929	407	38	445

資料4 上：都留市における階級別人口の推移

下：都留市における人口総数・世帯総数の推移

(国勢調査資料)



調査年	世帯数(戸)	人口(人)	1世帯あたりの人口(人)
1975年(S50)	9,554	32,607	3.4
1980年(S55)	10,034	32,901	3.3
1985年(S60)	10,466	33,158	3.2
1990年(H2)	11,178	33,903	3.0
1995年(H7)	12,423	35,398	2.8
2000年(H12)	13,128	35,513	2.7
2005年(H17)	13,271	35,017	2.6